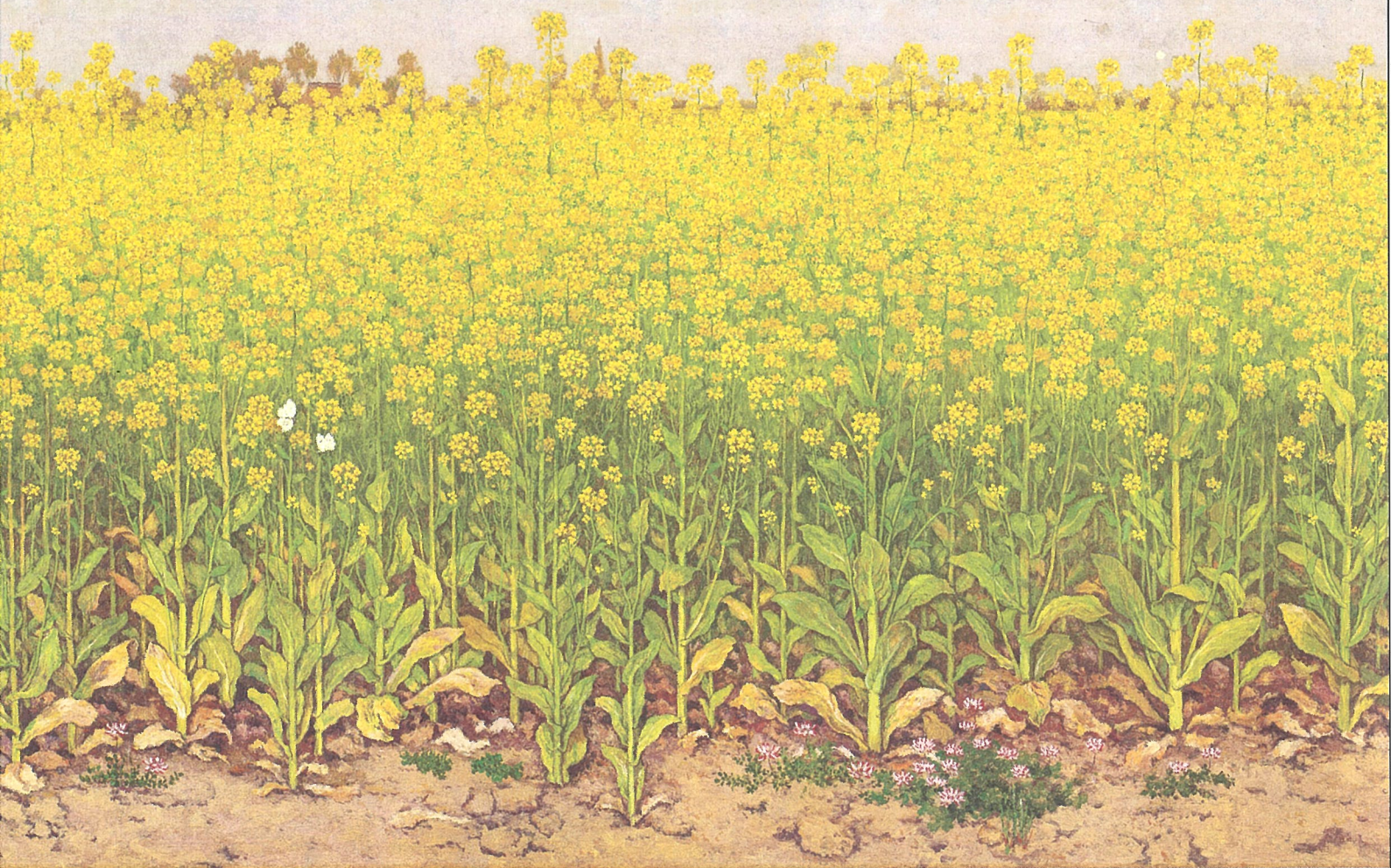




Takashima Yajuro 50 Years after His Passing

高島野十郎展

没後50年

2026年9月20日(日)―12月6日(日)

開館時間：午前9時30分―午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：月曜日(9月21日、10月12日、11月23日は開館)、9月24日(木)、10月13日(火)、11月4日(水)、11月24日(火)

観覧料：一般1,200円(960円)、大学生・高校生1,000円(800円)、中学生・小学生800円(640円)

※()内は20名以上の団体料金 ※身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者(1名)は無料。

※宇都宮市在学または在住の高校生以下は無料。宮っ子の誓いカードまたは学生証をご提示ください。

※11月3日(火・祝)「文化の日」は宇都宮市民は観覧無料です。ご来館の際は住所が確認できる身分証明書をご提示ください。

※毎月第3日曜日(9月20日、10月18日、11月15日)は「家庭の日」です。高校生以下の方を含むご家族で来館された場合、企画展観覧料が一般・大学生は半額、高校生以下は無料となります。

主催：宇都宮美術館、下野新聞社、毎日新聞社 協力：ブルーミング中西

没後50年——高島野十郎展

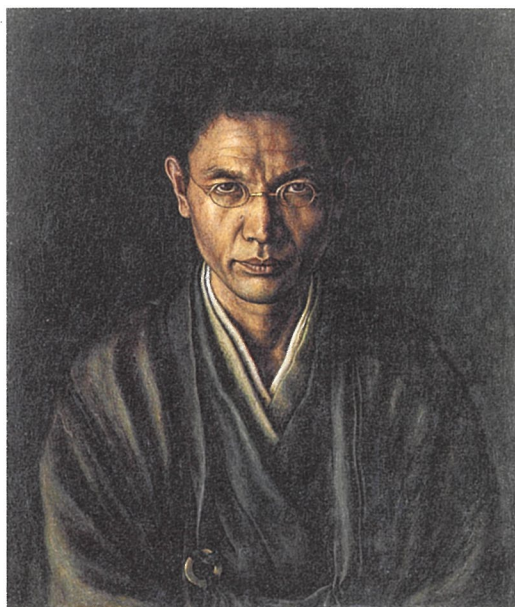
高島野十郎(1890-1975)は、「蠟燭」や「月」などを独特の写実的筆致で描く福岡県久留米市出身の洋画家です。没後50年の節目に開催する本展は、代表作はもちろんのこと、初公開も含めた約180点を展示する過去最大規模の回顧展で、栃木県内では約10年ぶりの開催となります。

「孤高の画家」と呼ばれてきた彼の芸術が形成されたルーツを遡り、生涯、野十郎が自身のよりどころとしてきた仏教的思想を読み解きつつ、青年期や滞欧期の作品など、従来の展覧会ではそれほど大きく取り上げられることがなかった部分にも焦点を当て、その芸術の真髓に迫ります。

流行や時代の趨勢に流されず、美術団体にも属さず、理想の絵画を追求しつづけるストイックな生き方を貫いた一方で、その絵を愛し、素朴かつ気骨ある生き方に共感する人が数多くいたことは、「孤高の画家」像からは想像しにくい一面かもしれません。野十郎に魅せられた人々が守ってきた作品や、交わした言葉が残る書簡などを通して、彼らの眼が捉えた野十郎の生身の姿を紹介します。

この秋、まだ知らない高島野十郎の新たな一面に出会ってみませんか。

高島野十郎、 ついに最終会場、 宇都宮へ。



1.《蠟燭》大正時代、福岡県立美術館蔵 2.《絡子をかけたる自画像》大正9(1920)年、福岡県立美術館蔵 3.《満月》昭和38(1963)年頃、東京大学医科学研究所蔵 4.《からすうり》昭和10(1935)年、福岡県立美術館蔵

関連事業

講演会

「野十郎の現在地——これまでとこれから」

講師：高山 百合氏(福岡県立美術館 学芸員)

日時：10月10日(土) 午後2時～午後3時30分

(開場は午後1時30分)

会場：宇都宮美術館 講義室

定員：150名(事前申込不要、当日先着順)

*企画展チケットが必要です(半券でも可)

*担当学芸員との対話形式

講演会「“仏”を描く、“仏”を生きる——
仏教をめぐる高島野十郎と画家たち」

講師：貝塚 健氏(千葉県立美術館 館長)

日時：11月7日(土) 午後2時～午後3時30分

(開場は午後1時30分)

会場：宇都宮美術館 講義室

定員：150名(事前申込不要、当日先着順)

*企画展チケットが必要です(半券でも可)

担当学芸員によるギャラリートーク

日時：10月3日(土)、10月24日(土)、11月14日(土)、
11月28日(土) 各回午後2時～

*申込不要、企画展チケットをお求めのうえ中央ホールにお集まりください。



交通のご案内 ●JR東京駅から東北新幹線「JR宇都宮駅」下車(約50分) ●JR宇都宮駅西口5番バス乗り場から関東バス「豊郷台・帝大東経由宇都宮美術館」行き終点下車(約25分)、またはタクシー(約20分) ●東北自動車道「宇都宮インターチェンジ」から約10km、「鹿沼インターチェンジ」から約14km ●北関東自動車道「宇都宮上三川インターチェンジ」から約19km

栃木県立美術館のご案内

第80回記念栃木県芸術祭 美術展 洋画・彫刻・工芸
2026年9月19日(土)～10月1日(木)

松本哲男展 2026年10月24日(土)～12月27日(日)

詳細は栃木県立美術館へお問い合わせください。

Tel. 028-621-3566